

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第一部 労働経済と労働者生活

II 労働者生活

4 昭和六〇年度『国民生活白書』

「世界に開かれた豊かな生活を求めて」という副題をもつ『国民生活白書』が、八五年一〇月二四日に発表された。同白書は、「はじめに」と「むすび」、および「第一章消費の実態」と「第二章国際化と国民生活」からなる。

第一章では、八五年度の家計の所得・消費の動向を把握するとともに、高度成長期以降の消費構造の変化を分析し、それを受け最後に高級化・多様化など消費の最近の実態を検討し、豊かな消費生活の条件を探っている。

第二章では国民生活の国際化の動向とそれにたいする国民意識を分析し、さらに生活水準の国際比較などを通じ今後の国際化の課題を探っている。

白書は、消費構造の最近の変化として指摘される消費の多様化・高級化は所得や純金融資産残高が多い世帯に限られる現象ではなく、比較的所得や資産の少ない層にも認められるという。とりわけ若年世帯や単身者世帯で顕著であると主張する。国民生活の国際化は、人、物、情報を通じて進展している。しかし、人の面では訪日外国人が増加したり情報面でも文化交流が進んでいるが、人と情報の面ではいまだ出超傾向にある。西側先進国との比較からみた生活水準は、(1)下水道、公園等の社会資本の整備が遅れている、(2)住宅の質的水準が低い、(3)年収との比較倍率でみた住宅取得価格が高い、(4)食料品価格が高い点などで遅れている。しかし他方、(1)保健・医療水準が高く、最長寿国である、(2)くらしの安全度が高い、(3)耐久消費財の普及率が高い、(4)第二石油危機後は物価水準が安定している、(5)労使関係が安定している、(6)失業率が低い、(7)教育水準が高いことなどではすぐれているという。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)